

前川家伝来の雛飾り

— 華麗なる江戸の極小雛道具 —

Hina Dolls of the Maekawa Family: A Look at Their Intricate Accessories



江戸・東京の地において、有力な財界人として知られた前川家に伝
わった雛飾りをご紹介します。最上段に御殿が付いた11段からなる雛
段（大正から昭和の初めに誂えられたもの）には、小さな雛人形や雛道
具が並べられています。付属の長持には安政7年（1860）に誂えられた
ことが記され、制作年代と伝来地が明確な雛飾りとして、きわめて貴
重な作品です。

この雛飾りの大きな特徴は、雛人形が京都製であるのに対し、雛道
具が江戸の地で作られたことにあります。この精緻な雛道具は、江戸
における雛道具の工芸的な完成を示す好例であり、たび重なる災禍を
くぐり抜け、現代に伝えられた意義は大きいといえるでしょう。

Many families in Japan display elaborate dolls, called *hina*, for an annual festival on March 3. These dolls express parents' wishes for the well-being of their daughters. This publication presents a set of *hina* dolls formerly owned by the prominent Maekawa family.

This set of *hina* dolls includes an eleven-tier stand from the first half of the 20th century, as well as miniature furniture, dining sets, and other accessories. An inscription on a miniature chest notes the accessories were made-to-order in 1860.

Another notable characteristic of this set is that the dolls were made in Kyoto, while the furniture and accessories were made in Edo (present-day Tokyo). The intricacy of the accessories reveals just how accomplished Edo craftsman had become. The set has also survived multiple natural disasters making its existence even more valuable.



雛道具

Hina Doll Accessories

精緻な牡丹唐草文や『源氏物語』が描かれたものなど、前川家伝来の雛道具は文様もバラエティーに富んでいます。そのなかには、「大」字形をした牡丹模様を特徴とした「七澤屋物」の雛道具も多く含まれています（七澤屋は上野池之端仲町に存在した高級玩具商）。

天保7年（1836）に刊行された『江戸名物狂詩選』（方外道人著）に「七澤屋手遊」と題して「長持・簞笥・台子の類。一寸の屏風、一尺の楼。看來りて、兒女皆目を歎ばしむ。恰も小人島裡に遊ぶに似たり」とあり、その精緻な品々は憧れの的でした。なお、『源氏物語』の蒔絵を施した雛道具については、浅草に存在した高級玩具商である武蔵屋の製品である可能性が考えられます。



3組のお雛様

Three Sets of *Hina* Dolls
Representing the Emperor and Empress



雛段の御殿には、3組の内裏雛が収められています。中央のお雛様が高級な町雛であるのに対し、両脇は装束の決まりごとに忠実な有職雛です。有職雛は宮中をはじめ、公家や大名といった上流階級で好まれました。



芥子雛、束帯・十二単姿

江戸時代・安政7年(1860) 男雛総高10.0cm、女雛総高9.0cm I-4437-1



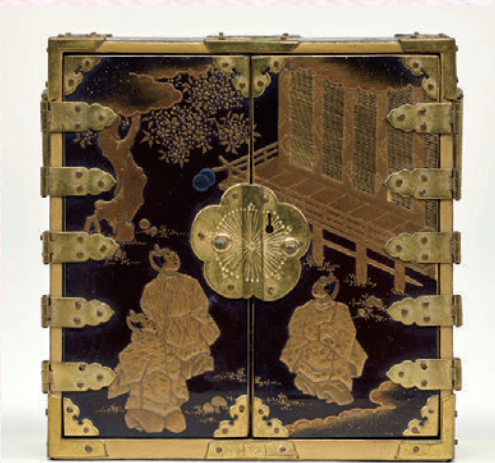
有職芥子雛、小直衣・袷姿

江戸時代・安政7年(1860) 男雛総高8.0cm、女雛高6.5cm I-4437-2



有職芥子雛、狩衣・袷姿

江戸時代・安政7年(1860) 男雛総高9.0cm、女雛高6.5cm I-4437-3



たんす
箆笥

*Hina Doll Accessories with Scenes from
The Tale of Genji, Chest*

江戸時代・安政7年(1860) 高7.8cm I-4437-23



扉は『源氏物語』第35帖「若菜下」。桜が満開の春の御殿で蹴鞠遊びの最中、柏木が御簾の向こうに女三の宮の姿を垣間見る場面です。扉を開けると浦島太郎の物語が描かれています。左右の扉裏には浦島太郎と乙姫。引き出しの前板には蛤が蜃気楼を噴き出しており、その中に竜宮城が見えます。

展示情報

特集 おひなさまと日本の人形

2020年2月26日(水)～3月22日(日)

東京国立博物館 本館14室

Thematic Exhibition

Hina and Japanese Dolls

Wednesday, February 26 – Sunday, March 22, 2020

Room 14, Honkan, Tokyo National Museum



前川家伝来の雛飾り——華麗なる江戸の極小雛道具——

2020年2月26日発行

執筆：三田覚之、撮影：藤瀬雄輔、翻訳：ミウオン・ヴォズニ（以上、東京国立博物館）／デザイン・制作・印刷：精興社／編集・発行：東京国立博物館
©2020 東京国立博物館 Tokyo National Museum